

## 製剤の各種条件下における安定性

### レラキシシン注用 200mg

6年間の室温保存で外観及び含量の変化は認められなかった。

#### 溶解後の安定性

レラキシシン注用 200mg を蒸留水、生理食塩液及び5%ブドウ糖液各 10 mL で溶解し、冷暗所、室温、恒温槽（37℃）の三条件で、経時変化を検討した結果は以下の通りであった。

- 1)最も安定な条件は5%ブドウ糖液で溶解し、冷暗所に保存したものであった(10日間変化なし)。
- 2)最も分解しやすいものは恒温槽（37℃）に保存した生理食塩液及び蒸留水で溶解したものであった（3日間までは変化なし）。
- 3)室温において各々の試料溶液は5日間変化を認めず安定であった。